

農産物主要品目の平成26年産生産実績

【土地利用型作物】

米	H22 (基準年)	H24実績	H25実績	H26実績 (H26/H25)	H29目標年
作付面積 (ha)	34,600	34,200	34,400	33,900 (99%)	33,600
10a収量 (kg/10a)	612	610	632	597 (94%)	623
生産量 (t)	211,800	208,600	217,400	202,400 (93%)	209,328

【26年産解説】

作付面積は、生産数量目標が前年比96%であったことから、超過作付があったものの、前年をわずかに下回った。

生産量は、全もみ数が平年並みに確保されたものの、8月以降の日照不足等により登熟がやや不良となったことから、前年をかなりの程度下回った。

価格は、前年産までの過剰在庫に加え、全国の作況指数が101の平年並みであったことにより、全国的に値下がりをした。

麦	H22 (基準年)	H24実績	H25実績	H26実績 (H26/H25)	H29目標年
作付面積 (ha)	2,410	2,570	2,560	2,650 (104%)	2,850
10a収量 (kg/10a)	303	386	298	337 (113%)	410
生産量 (t)	7,310	9,930	7,630	8,920 (117%)	11,700

【26年産解説】

作付面積は、小麦の作付がやや増加したことから前年をやや上回った。

生産量は、前年秋の降雨による播種作業の遅れや、2月の豪雪による追肥作業の遅れから、穂数は平年よりやや少ない傾向となったものの、単収や作付面積が増加したことから、前年を大幅に上回った。

価格は、大麦は前年とほぼ同額であったが、小麦は国際相場の影響からやや値下がりをした。

大豆	H22 (基準年)	H24実績	H25実績	H26実績 (H26/H25)	H29目標年
作付面積 (ha)	2,370	2,200	2,090	2,050 (98%)	2,500
10a収量 (kg/10a)	145	161	163	165 (101%)	200
生産量 (t)	3,440	3,540	3,410	3,380 (99%)	5,000

【26年産解説】

作付面積は、難防除雑草等の影響により作付が控えられ、前年をわずかに下回った。

生産量は、単収はほぼ平年並みであったが、作付面積がわずかに減少したことから、前年をわずかに下回った。

価格は、全国的な作付面積増加などにより生産量が増加したことから、前年よりやや値下がりをしたものの、高い価格で取引された。

そば	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,960	3,970	3,890	4,060 (104%)	4,000
10a 収量 (kg/10a)	75	85	69	63 (91%)	90
生産量 (t)	2,220	3,370	2,680	2,580 (96%)	3,600

【26 年産解説】

作付面積は、田・畑ともに作付が増加したことから前年をやや上回った。
 生産量は、8月以降の天候不順の影響から湿害や結実不良が発生し、前年をやや下回った。
 価格は、全国的な作付面積の減少と、主要産地である北海道産の不作により、国産そばの流通量が減少したことから高値で取引された。

【果 樹】

りんご	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	8,180	8,060	7,980	7,900 (99%)	7,810
10a 収量 (kg/10a)	1,771	2,057	1,946	2,062 (106%)	2,074
生産量 (t)	144,900	165,800	155,300	162,900 (105%)	162,000

【26 年産解説】

作付面積は、栽培者の高齢化に伴う離農等から前年をわずかに下回った。
 生産量は、早生種では7月中旬から下旬の少雨により肥大が劣ったが、その後の降雨により中晩生種では、前年以上の肥大となり、全体で前年をやや上回った。
 価格は、中生種で他産地とのだぶつきから一時低迷し、その後、晩生種で持ち直したものの、高単価で推移した前年をやや下回った。

ぶどう	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,440	2,430	2,430	2,400 (99%)	2,450
10a 収量 (kg/10a)	980	1,247	1,103	1,229 (111%)	1,094
生産量 (t)	23,900	30,300	26,800	29,500 (110%)	26,800

【26 年産解説】

作付面積は、栽培者の高齢化等から前年をわずかに下回った。
 生産量は、結果樹面積の増加に加え、適度な降雨で果粒肥大が進み大房傾向となり、前年をかなり上回った。
 価格は、近年のぶどう人気が続いており、前年並みで推移した。

なし	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,030	978	948	905 (95%)	920
10a 収量 (kg/10a)	1,825	2,193	1,625	1,981 (122%)	2,011
生産量 (t)	18,800	21,450	15,400	17,930 (116%)	18,500

【26 年産解説】

作付面積は、栽培者の高齢化等により、前年をやや下回った。
 生産量は、春先の凍霜害もなく、結実・初期肥大が順調であったため、前年を大幅に上回った。
 価格は、早生種以外は、8月の降雨で糖度不足等の品質低下が影響し低迷した。

もも	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,200	1,170	1,150	1,130 (98%)	1,110
10a 収量 (kg/10a)	1,400	1,581	1,339	1,442 (108%)	1,604
生産量 (t)	16,800	18,500	15,400	16,300 (106%)	17,800

【26 年産解説】

作付面積は、栽培者の高齢化や他品目への改植等で前年をわずかに下回った。
 生産量は、春先の凍霜害の影響もなく、結実・初期肥大は良好で、前年をかなり上回った。
 価格は、一部の品種を除き、8月の降雨で着色不良や糖度不足等の品質低下が影響し低迷した。

【野菜】

レタス	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	5,790	5,720	5,900	5,870 (99%)	5,910
10a 収量 (kg/10a)	2,961	3,400	3,400	3,290 (97%)	3,146
生産量 (t)	171,400	194,600	200,600	193,300 (96%)	187,000

【26 年産解説】

作付面積は、前年並みとなった。
 生産量は、春先の干ばつ、夏場の集中豪雨や連続した曇天降雨の影響で、作柄の安定していた前年より10a当りの収量が減少したため、前年をやや下回った。
 価格は、一時期、天候の影響及び出荷量の減少による高騰と、本県産の終盤で他産地産との競合による下落があったが、期間をとって堅調に推移し前年を上回った。

はくさい	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	2,750	2,770	2,750	2,730 (99%)	2,500
10a 収量 (kg/10a)	7,452	8,450	8,150	8,150 (100%)	7,400
生産量 (t)	202,700	234,100	224,200	224,000 (100%)	185,000

【26 年産解説】

作付面積は、生産者、県、市町村、出荷団体による産地をあげての夏はくさいの適正生産の取組(期間:7月～8月10日)が継続され、需要に見合った作付となったことから、前年並となった。

生産量は、春先の干ばつ、夏場の不順天候などの影響は軽微であり、10a 当たりの収量は前年をわずかに上回ったことから前年並みとなった。

価格は、夏はくさいの適正生産の取組により堅調に推移し、本県産終盤となる10月に他県産との競合により一時下落したが、期間をとおした価格は、前年をやや上回った。

キャベツ	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,470	1,470	1,460	1,500 (103%)	1,600
10a 収量 (kg/10a)	4,033	4,610	4,370	4,410 (101%)	4,500
生産量 (t)	59,300	67,700	63,800	66,100 (104%)	72,000

【26 年産解説】

作付面積は、夏はくさい適正生産の取組による代替品目として、また水田地帯での導入に伴い、前年をやや上回った。

生産量は、不順天候の影響は軽微であり、前年より面積が増加した分前年をやや上回った。

価格は、一時期他県産との競合により低迷したが、その後は需要に見合った出荷量となり前年並みとなった。

ブロッコリー	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	815	772	825	836 (101%)	850
10a 収量 (kg/10a)	930	934	950	934 (98%)	953
生産量 (t)	7,050	7,120	7,840	7,810 (100%)	8,100

【26 年産解説】

作付面積は、夏はくさい適正生産の取組による代替品目として、また水田地帯での導入に伴い、前年をわずかに上回った。

生産量は、腐敗性の病害、生理障害等の発生が少なかったことから、前年並となった。

価格は、期間をとおして安定した出荷量であったことから前年並みとなった。

アスパラガス	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	1,300	1,140	1,060	1,010 (95%)	1,400
10a 収量 (kg/10a)	248	227	264	250 (95%)	430
生産量 (t)	3,450	2,590	2,800	2,530 (90%)	5,600

【26 年産解説】
 作付面積は、生産者の高齢化や病害の発生により前年をやや下回った。
 生産量は、作付面積の減少に加え、雪害による初期出荷の遅れにより10a当たり収量が減少したことから、前年をかなりの程度下回った。
 価格は、市場での需給のバランスが取れていたことから、本県出荷期間をとおして堅調に推移した。

トマト	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	438	399	410	404 (99%)	450
10a 収量 (kg/10a)	4,940	5,690	5,290	5,220 (99%)	6,222
生産量 (t)	22,200	22,700	21,700	21,100 (97%)	28,000

【26 年産解説】
 作付面積は、生産者の高齢化等によりジュース用トマト、生食用トマトともに減少したことから、前年をわずかに下回った。
 生産量は、作付面積の減少と10a当たり収量が前年をわずかに下回ったことから、前年をやや下回った。
 生食用トマトの価格は、市場の入荷量の増加などにより低迷し、前年をかなり下回った。

きゅうり	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	425	411	405	403 (100%)	430
10a 収量 (kg/10a)	3,829	4,060	3,880	3,750 (97%)	4,418
生産量 (t)	16,200	16,700	15,700	15,100 (96%)	19,000

【26 年産解説】
 作付面積は、生産者の高齢化等により前年をわずかに下回った。
 生産量は、夏場の低温により生育が停滞した時期があり、前年をやや下回った。
 価格は、全国的に天候の影響により市場への入荷量が増加しなかったため、堅調に推移し前年を上回った。

【花 き】

キク	H22 (基準年)	H24 実績	H25 績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	138	133	130	122 (94%)	111
10a 収量 (本/10a)	26,304	26,397	27,615	27,459 (99%)	27,297
生産量 (千本)	36,300	36,000	35,900	33,500 (93%)	30,300

【26 年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化によりかなり下回った。

生産量は、作付面積の減少により前年を下回った。夏場の異常高温により枯死する事例も散見された。

価格は、東北産地の台頭や、愛知県など暖地の長期出荷により、前年をやや下回った。

カーネーション	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	96	93	92	83 (90%)	88
10a 収量 (本/10a)	64,760	63,010	60,000	61,064 (102%)	68,182
生産量 (千本)	62,300	58,600	55,200	50,500 (91%)	60,000

【26 年産解説】

作付面積及び生産量は、2月の記録的な豪雪により、栽培施設が倒壊した影響で、前年をかなり下回った。

価格は、品質の高い輸入品(コロンビア、エクアドル等)の台頭により、前年を下回った。

リンドウ	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	39	37	37	35 (95%)	38
10a 収量 (本/10a)	19,115	16,694	15,176	16,840 (111%)	20,263
生産量 (千本)	7,493	6,210	5,600	5,760 (103%)	7,700

【26 年産解説】

作付面積は、生産者の高齢化に伴う離農や、早期株落ちが影響し前年をやや下回った。

生産量は、安定した栽培技術とリンドウホソハマキ等難防除害虫防除の徹底により前年をやや上回った。

価格は、旧盆、彼岸を中心に、東北主産地からの大量出荷により、市場全体で荷がダブつき前年を下回った。

トルコギキョウ	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	51	51	51	47 (92%)	58
10a 収量 (本/10a)	26,336	27,450	26,078	26,652 (102%)	25,345
生産量 (千本)	13,300	14,000	13,300	12,500 (94%)	14,700

【26 年産解説】

作付面積及び生産量は、2月の記録的な豪雪により、栽培施設が倒壊した影響で、前年をかなり下回った。
 価格は、出荷期間を通じた安定した品質と、カジュアルから専門店向きの高級品まで多様なニーズの確保により前年を上回った。

アルストロメリア	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	25	27	27	25 (93%)	28
10a 収量 (本/10a)	72,510	75,373	75,000	83,870 (112%)	78,571
生産量 (千本)	18,200	20,200	20,100	20,800 (103%)	22,000

【26 年産解説】

作付面積は、2月の記録的な豪雪により、栽培施設が倒壊した影響で、前年をかなり下回った。
 生産量は、上伊那地域を中心に、栽培の周年化への取組により、前年をやや上回った。
 価格は、品質の安定した長野県産の高評価もあり前年を上回った。

鉢花類	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
作付面積 (ha)	87	86	87	86 (99%)	77
10a 収量 (鉢/10a)	24,149	25,491	24,469	24,068 (98%)	24,286
生産量 (千鉢)	21,010	21,770	21,190	20,530 (97%)	18,700

【26 年産解説】

作付面積は、シクラメンを中心に2月の記録的な豪雪により、栽培施設が倒壊した影響で、前年をわずかに下回った。
 生産量は、豪雪の影響や夏期の高温の影響による出荷ロスが発生し、前年を下回った。
 価格は、シクラメンを中心に小鉢化が進み、一鉢あたりの取引価格が下がった影響で、前年をやや下回った。

【きのこ】

えのきたけ	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
生産量 (t)	86,070	85,690	83,903	83,470 (99%)	94,426

【26年産解説】

生産量は夏場における適正生産に取り組み、ほぼ前年並みとなった。
盆からの低温傾向に伴う、秋野菜の出荷減もあって、一時期高値で推移したが、全体としては前年よりやや安値で推移した。

ぶなしめじ	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
生産量 (t)	47,868	50,589	46,154	47,382 (103%)	55,746

【26年産解説】

生産量は前年の出荷量が少なく高値で推移したことから、一部生産者が増産し、前年をやや上回った。
盆からの低温傾向に伴う、秋野菜の出荷減もあって、一時期高値で推移したが、全体としては前年よりやや安値で推移した。

【畜産】

乳用牛	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
頭数	19,800	18,660	18,300	17,590 (96%)	19,200
生産量 (t)	116,345	110,550	108,650	106,587 (98%)	117,400

【26年産解説】

飼養頭数は、高齢化による品目転換や経営中止による飼養戸数の減少に伴い前年比96%となった。
生産量は、頭数減少による影響を受け、前年比98%となった。
乳価は、25年秋に引き上げられた影響が26年も維持された。

肉用牛	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
頭数	29,500	26,900	26,400	24,200 (92%)	28,500
生産量 (t)	7,064	6,475	6,354	6,144 (97%)	6,552

【26年産解説】

飼養頭数及び生産量は、配合飼料の高止まりや肥育素牛の高騰等により、飼養戸数が減少し、前年比92%となった。
枝肉価格は、円安等の影響により輸入量が抑えられていることや全国的な生産量の減少に伴うと畜頭数の減少により、下位等級を中心に上昇した。

豚	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
頭数	75,000	80,200	73,800	74,300 (101%)	75,900
生産量 (t)	11,518	12,314	11,903	11,213 (94%)	11,530

【26年産解説】

飼養頭数は、前年実績を維持したものの、5月に発生した豚流行性下痢(PED)の影響等により、と畜頭数が減少したため、生産量は前年比94%となった。

枝肉価格は、円安による輸入品価格上昇および国内でPEDまん延による生産量の減少から、堅調に推移した。

鶏	H22 (基準年)	H24 実績	H25 実績	H26 実績 (H26/H25)	H29 目標年
羽数	1,403	1,751	1,525	1,441 (94%)	1,375
生産量	15,700	15,525	14,645	14,049 (96%)	14,017

【26年産解説】

採卵鶏の飼養羽数、生産量及び成鶏雌羽数は減少したが、鶏卵価格は25年秋以降の畜産物価格全体が高水準で推移する中、加工需要など相場の下支えがあり、高値で推移した。

ブロイラーの飼養羽数及び生産量は、わずかな減少に留まり、鶏肉価格は豚肉相場の上昇により代替肉としての需要の伸び等により、好調に推移した。